

令和6年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(Ⅰ 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
事業内容報告書の概要

地方公共団体名【大山崎町】							
令和6年度に実施した取組の内容及び成果と課題							
<p>1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)</p> <p>大山崎町教育支援委員会(在学部会)</p> <p>・各校特別支援学級担任、管内支援学校総括主事、町教育委員会担当者</p> <p>校長会議</p> <p>・各校校長、町教育委員会担当者</p> <p>学校体制</p> <p>・特別支援学級に児童が在籍し、学級担任プラス特別支援員1名が付きっきりとなって指導。</p>							
<p>2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <p>(1.4)・大山崎町教育支援委員会の在学部会を実施し、毎月定期的に行われる学校長会議等でも情報共有。</p> <p>(2)・主に国語と算数の授業は特別支援員が付きっきりで指導し、体育や生活、音楽等の授業では通常学級で他児童と交流しながら授業に参加。</p> <p>(3)・国語の時間では教科書だけでなく、児童が理解しやすい本を図書室からチョイスし、読み聞かせ。</p> <p>(3)・授業の取り組みの一環で、テーマに沿った日本語によるスピーチを実施。</p> <p>(10)・特別支援員は通常学級との交流授業の際、対象児童のフォローに入り、クラスに馴染みやすいよう努めた。</p>							
<p>3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <p>(2.10)・日本語の上達が目に見えるようになり、日本語によるコミュニケーションがとれるようになった。</p> <p>(3.10)・「話す」、「聞く」はできるようになったが、「書く」のレベルが低いため、「書く」の指導に力を入れていく。</p> <p>(1.2)・日本語の情報が多くなり、心理的負荷が大きくなっているため、自・情面の支援を増やす。</p> <p>(4)・新入学、転入の情報は少ないが、適切な対応ができるように進めている。</p>							
本事業で対応した幼児・児童生徒数	幼稚園等 (人園)	小学校 (1 人校)	中学校 (人校)	義務教育学校 (人校)	高等学校 (人校)	中等教育学校 (人校)	特別支援学校 (人校)
うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数	/	1 人 (1校)	(人校)	(人校)	(人校)	(人校)	(人校)
<p>4. その他(今後の取組予定等)</p> <p>・来年度も引き続き同様の取り組みを実施。</p> <p>・日本語の情報が多くなり、心理的負荷が大きくなっているため、自・情面の支援を検討する。</p>							

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。

※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き、様式9(添付1)の5. 成果イメージ資料のポンチ絵と併せて、文部科学省ホームページで公開する。